



わたしの聖戦

女性が働くことについて

141

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

ゴジラ 1954

この夏のハリウッド版
ゴジラの上映に先立ち、
日本最初のゴジラ映画で
ある「ゴジラ1954」
がBSで放送された。

ハリウッドは、近年映
画の題材に枯渇しており、
あちこちの国の映画をリ
メイクしているようだが、
これもその一環だろう。

リメイク物はほとんどが
駄作というイメージがあ
り、はつきり言って全く
関心がなかった。リメイ
クどころか、オリジナル
のゴジラに対しても興味
は薄かった。ただ、小さ
い頃に映画好きの父に連
れられて、ゴジラとモス
ラの映画を観た記憶があ
った。モスラには双子の
小さな美人歌手が登場し、

可愛らしい声でモスラを
呼び出す歌声は今でも耳
にこびりついている。

この美人歌手を演じた
のはザ・ピーナッツだ
が、ふたりのうちひと
りがすでに鬼籍に入っ
ていることを思うと、
随分昔の映画だと実感
できる。

ずばり、1954年版
「ゴジラ」は素晴らしか
った。何気に画面を見て
いたのが、いつのまにか
釘づけになってしまった。
私自身が生まれる前の、
CGもない時代の映画で
ある。特撮は幼稚でスト
ーリーもご都合主義が目
立つ。それなのに、何故
こんなにも惹きつけられ
てしまったのだろうか。

まず、1954年とい
う年に着目した。終戦後
まだ10年を経ず、世界は
冷戦時代にあった。

静岡県の焼津から出帆
した第五福竜丸は、ビキ
ニ環礁でアメリカの水爆
実験の被害に遭遇する。

「死の灰」、すなわち多
量の放射性物質を浴びた
船員たちが港に帰り着く
様子は、ニュースでも流



れ、今ではユーチューブ(※)
で見ることができ。映
画にもなった事件であり、
世界ではじめての被爆国
となった日本に再び放射
能の恐怖を突きつけた。
ゴジラのプロデューサ
ーである田中友幸は、な
んとこのアクシデントに
ヒントを得て、ゴジラの
制作に着手したのだとい
う。ゴジラは海底に眠っ

ていた太古の怪獣が水爆
実験によって目覚めると
いう設定である。まさに、
地震と津波によって破壊
された原子炉施設に翻弄
される福島と日本の今の
姿とがダブるエピソード
である。

311以後、原発とい
う重い課題を背負ってし
まった日本では、やれ福
島産の野菜は口にできな
いだの、なるべく近づ
きたくないだの、とい
った後ろ向き報道も
目立つ。確かに、放射
能の被害を軽く見るつ
もりはないし、用心す
るに越したことはない。

しかし1954年の
日本は何とおおらかでた
くましかったことか。核
実験で蘇ったゴジラが街
を破壊し、雄叫びを上げ
る姿に日本中が喝采を送
り、興奮し、そして楽し
んだのである。その後も
次々と続編が作られ、ゴ
ジラが愛すべき日本の怪
獣の代表格になっていく
ことを思うと、映画の内
容というより、ゴジラを

誕生させ育んできた日本
の文化そのものに感動す
るのである。最期、ゴジ
ラは特殊な化学物質によ
って溶けて骨だけになっ
てしまう。そのシーンを
見た原作者の香山滋は涙
を流し、観客からはなぜ
ゴジラを殺したのだとい
うクレームが多数入った
という。

1955年以降、米ソ
や中国の核実験によって
日本の上空にもたくさん
の放射性物質が飛び交っ
た。311を待つまでも
なく、私たちは結構な量
の放射線を浴びてきたの
だ。それをいいこととは
言わないが、終戦直後の
暗い時代を生き抜いてき
た日本人独特のユーモア
が、今こそ求められてい
るのではないか、そんな
風に考えながらひたすら
ゴジラにエールを送った
のであった。

イラスト・伊藤栄章

※ユーチューブ・インターネッ
ト上で閲覧する無料動画サイト